



山口 雅裕

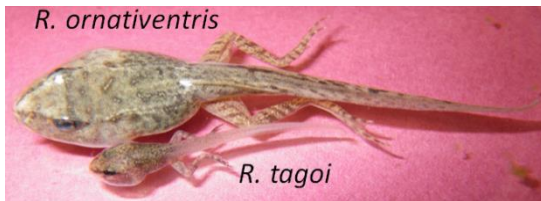
動物たちが生きていく仕組みを観察する

動物が幼生から成体になっていく仕組みや、体の状態を環境に合わせて調節する仕組みについて、カエルやカニなどを使って調べています。進化の歴史の中で、動物たちがどのような生き様を選んできたのかについて知りたいと考えています。

所属： 生物応用化学科 職名： 教授 学位： 博士(理学)

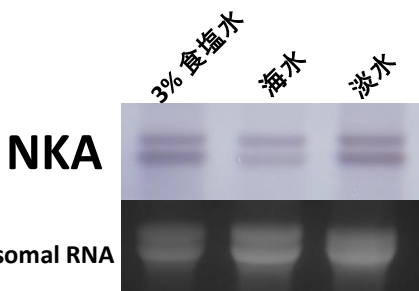
Mail: [yamaguchi\(at\)chem.suzuka-ct.ac.jp](mailto:yamaguchi(at)chem.suzuka-ct.ac.jp)

Web: [researchmap](#)



ヤマアカガエル（上）とタゴガエル（下）の幼生

同じ発生段階にある幼生だが、タゴガエル幼生は摂餌しないため、同属のヤマアカガエル幼生に比べてずっと小さい。



アシハラガニの体液調節

（上）アシハラガニ成体、（下）エラにおけるアシハラガニNKA遺伝子の発現。NKAは淡水中だけでなく、食塩水中でも発現が上昇する。

研究

専門 発生生物学, 動物学

所属学会 日本動物学会, 日本発生生物学会

研究 両生類変態期における体の作りかえ, カニ類の環境液に対する応答

Key words 両生類, ツメガエル, タゴガエル, 赤血球, カニ, エラ, 体液

実験装置 ミクロトーム, PCR, 顕微鏡, 泳動装置, 遠心機

論文など [researchmap](#)

教育

担当授業 基礎細胞生物学（3年）, 細胞工学(4年), 分子生物学(4年), 遺伝子工学(5年), 分子生命科学（専1年）, 細胞情報科学（専2年） 生物化学コース実験（5年）, 卒業研究（5年）, 特別研究 I・II（専1, 2年）

(担当授業の特色を記載)

生き物の体の中の仕組みについて、遺伝子やタンパク質などの働きだけでなく、その仕組みが進化した背景も視野に入りたいと思っています。

卒業研究では組織や遺伝子を扱うだけでなく、研究に使う動物の採集も行います。